

## I 本校の教育目標

「豊かな心」と「心身ともに健全」な青少年の育成をめざし、知・徳・体の調和と統一のとれた学校教育の実践につとめる。

校訓 「自分に厳しく 他人に暖かく」

## II 本年度の本校における努力点とその推進計画

### 1 本年度の学校努力点主題

ともに、前へ

－ 互いに学び合い、高め合おう －

### 2 主題について

令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」が策定された。市では全ての子どもが、学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、自律して学び続ける子を育成することを目指している。また、目指したい子どもの姿として、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」姿の実現が望まれている。

昨年度は、「相手の気持ちを考えて行動しよう」副題とした。授業の中で、反復学習や意見交換など、相手の気持ちや考えに触れる場面を設定することとした。また、異年齢層との交流を行い、より多様なコミュニケーションの場を設定した。こうした取組を通して、生徒が、人には多様な考え方があることを実感することができた。しかし、他の思いを汲んで、自らの行動に反映させるまでには至らなかった。

そこで今年度は、副題を「互いに学び合い、高め合おう」とし、「主体的行動力」「共に生きる力」「自律して学び続けられる力」の3つの力の育成を柱として取り組んでいきたい。「主体的行動力」では、例えば、受容・共感・傾聴を基本とした「支援する」生徒指導の充実を図り、生徒自らが考え、判断して行動できるように支える。また、授業の中で生徒自らが課題を設定し、解決に向けて道筋を考えられる場面の設定などを行う。「共に生きる力」では、3年間を見通し、発達段階に合わせた道徳講演会を開催することで、多様性への理解を深め、自他を受入れ、大切にし、望ましい人間関係を育むことができるようにする。また、授業において、他者と協働できる場面を設定し、自他の良さに気づくことができるようにしていきたい。「自律して学び続けられる力」では、学校のルール作りへの参画を促すなど、生徒自らの手で環境を作り上げていけるような場面をより多く設定する。また、自由進度学習、協働的な活動、ICTを使用した発表活動など、学ぶ内容や学び方を自ら自己決定できる場面を随所に設定し、学びの自己調整が行えるようにしていきたい。

以上のような活動を通して、生徒が大人や仲間の力を借りたり、自分の力を貸したりしながら、自他を大切にすることで、互いに学び合い、高め合える生徒の育成を目指していきたい。